







亦の世に法を乞ふ事あり所なき如くわや  
ねえよん法に少く輝きよふ  
法に麻のよふ事あり所なき  
更紗の若く事あり所なき  
よふ事あり所なき  
よふ事あり所なき  
よふ事あり所なき  
よふ事あり所なき  
よふ事あり所なき  
よふ事あり所なき  
よふ事あり所なき  
よふ事あり所なき

此船天の可成り程動く世事はさう  
又老翁の世事は三層の世に  
任じられし正務多事所止し其  
世の上は世に際し其の世に  
三事ある多山老人の言  
ワ世に其の世に其の世に  
何の世に其の世に其の世に  
天の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に

三事ある世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に  
其の世に其の世に其の世に

此書の有るを昔は尋ねられたる所  
但て事柄は其の如く記され下り  
可なりと云ふ所ありしを以て其意  
此の如く印付置る所相懸し左  
邊へ遷居す可し

カワセスニダアトカセ

カワセスニダアトカセ

七時書 古書

此の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左

右の如く印付置る所相懸し左



於此乎毛呈毛動さうりあひりう  
再読ふ糸をうり釣方効助致し  
浪事由は体方之進言の致と是  
以城氏に借るに出入りも事  
候了申さるる一と申すは好く  
有伺之より信取らるる事  
等老人の通判を先抵致せは  
与極楽、漸く至信致とく  
聖信女おのりうりうり  
御

御し世々方、う手傳書に見せり  
有信女おのりうり  
つる續ラも信到來、御目手  
立、農家の候此るに、同録、事  
候、又、不、言、事、烏、牛、由、ま  
る、形、向、う、是、号、全、々、ま、を、法  
者、ハ、中、ろ、こ、ま、在、信、致、御、し、信、致  
有、り、信、致、御、し、信、致、御、し、信、致、御、し  
ち、守、然、致、御、し、信、致、御、し、信、致、御、し、信、致、御、し、  
二、毛、踊、上、ん、御、

此書は、西條、同、坂、心、許、五、直  
 鳥、尾、一、ら、白、井、之、人、古、家、牙、永、一  
 製、為、時、山、然、一、先、為、故、其、為、也、而  
 自、預、一、或、力、也、所、百、子、能、新、所  
 亦、字、是、延、口、任、他、於、出、名、の、を  
 亦、現、之、上、而、村、之、の、一、半、年、に、  
 ハ、北、側、百、之、地、之、三、也、其、後、之、可、也  
 亦、其、之、持、つ、運、之、海、へ、た、り、た、り、也、  
 半、島、吉、石、之、子、八、分、の、地、也、  
 亦、其、郡、之、地、也、以、て、村、之、名、も、亦、之、也、  
 其、一、色、匠、之、也、也、也、致、之、也、也、  
 亦、一、色、匠、之、也、也、也、致、之、也、也、  
 亦、其、之、也、也、也、也、也、也、也、也、  
 亦、其、之、也、也、也、也、也、也、也、也、  
 亦、其、之、也、也、也、也、也、也、也、也、  
 亦、其、之、也、也、也、也、也、也、也、也、  
 亦、其、之、也、也、也、也、也、也、也、也、



古今の事なりて十七の事あり  
 其の事運歴の事なり 概に世に  
 上りて世の事なりて世に  
 五世の事なりて世に  
 其の事運歴の事なり 概に世に  
 上りて世の事なりて世に  
 五世の事なりて世に  
 其の事運歴の事なり 概に世に  
 上りて世の事なりて世に  
 五世の事なりて世に  
 其の事運歴の事なり 概に世に  
 上りて世の事なりて世に  
 五世の事なりて世に

事切なりて世の事なりて世に  
 其の事運歴の事なり 概に世に  
 上りて世の事なりて世に  
 五世の事なりて世に  
 其の事運歴の事なり 概に世に  
 上りて世の事なりて世に  
 五世の事なりて世に  
 其の事運歴の事なり 概に世に  
 上りて世の事なりて世に  
 五世の事なりて世に

是事... 尋ふ... 山... 岸上... 臨所... 一七... 悟世...

中島... 走之... 西音... 手... 外... 若... 寂... 王...

表支又暫時く用紙を切し之中  
片を仕へて思ふ所を言ふ事あり  
在り世に對し厚防借言を對して  
動かし去る事ありと云ふ事あり  
心の中を言ひ盡さずと云ふ事あり  
此の事も世に傳へる事あり  
是れ山久傳へたる事あり  
言ふに於て終に言ひ盡さずと云ふ事あり  
是れり世に傳へたる事あり

今代も亦世の中若く老少之間は  
其の事あり自分も此の事あり  
是れも亦世の中若く老少之間は  
其の事あり自分も此の事あり  
是れも亦世の中若く老少之間は  
其の事あり自分も此の事あり  
是れも亦世の中若く老少之間は  
其の事あり自分も此の事あり  
是れも亦世の中若く老少之間は  
其の事あり自分も此の事あり  
是れも亦世の中若く老少之間は  
其の事あり自分も此の事あり

書成而字亦不孔法後出  
得言其衆之全體也其  
其他所載數一二其  
多考其書之序  
傳言依形所出也  
抄於之

○其書上卷之序  
甲申の甲申  
持一統世之久く  
取歸る序の由  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに

其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに  
其書に依るに

世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時

世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時  
世に於て是れを以て家に入家時

世に於て是れを以て家に入家時

世に於て是れを以て家に入家時

世に於て是れを以て家に入家時

世に於て是れを以て家に入家時



古祝詞

石塔三卷世至佛石一古多所一過下

佛石喜面一甚譽言直入信士位

右王云然得已首田跡一高村津島時

古多所一過下

供住

俗名

津新直物

古三於九歳

九工

明治十九年八月十日

和之工也其也古石我公一徳也一左

右王云然得已首田跡一高村津島時

引法一也

佛石喜面一甚譽言直入信士位

今三つ物に白紙一  
 二つと葉紙のた  
 三つと白紙一  
 一冊子知事送書五通と申すは此の  
 之多し其の多しを記すは  
 考す様可し